

## 【赤野間 妃葵さん】大正大学 文学部人文学科国際文化コース3年



インターンシップ時の写真：写真一番左

### 【プロフィール】

・氏名（ふりがな）

→赤野間 妃葵（あかのみ きさき）

・所属：大学、専攻、学部学科、コースなど

→大正大学 文学部人文学科国際文化コース3年

・出身地：都道府県まで

→千葉県

・学生生活：個人的な興味関心、学生生活で力を入れていること

→何事にも挑戦してみることを意識。個人で申し込んだ海外インターンシップで、仲良くなった人の貧困に直面した。それをきっかけに、安定した収入を得続けるにはどのような施策や行動が必要かを研究している。

・DP事業に係る参加理由・背景・きっかけ

→大学3年生に進級する時、あと2年間で、社会の役に立つ人になれるか不安に感じ、新コースとして開設されたこのプログラムで、自分のレベルを上げようと考え参加した。

・具体的な関り方と内容（履修科目やスタッフなど／※次の質問とは別の観点で）

→実践的な内容の科目が多いイメージ。私は、画像編集や動画編集を学ぶ科目や、コミュニケーションに必要な能力を1つ1つ基礎から学ぶ科目、自分が起業してみたい事業を考えて、創業計画書を書いてみる科目など、将来に直接つながる科目を履修した。

・DP事業を通じた社会とのつながり（とくに企業・自治体・高校など／※前の質問とは別の観点で）

→履修科目のなかで、インターンシップに行くことが必修の授業があり、お世話になった企業がある。そのインターンシップの中で、海外で働くことが私の将来の目標になった。

・DP事業の学びを自身のキャリアにどのように活かそうか（大学院進学や就職など）

→これからのキャリアで、自分の持っている“価値”をいつでもうまく使えると思う。プログラムを通して、社会の理解も深まったが、何よりも自分自身を理解し、学ぶことができた。今後、人生の分岐点に立った時に、しっかり自分と対話できると思う。

・これまでの枠組みにとらわれない教育（＝DP事業）の必要性や意義について個人やまわりの学生から聞いた考え

→人生の夏休みに、真面目なことを考えるのが苦手な学生も周りにはいるが、SNSやAI・機械技術の進化が著しく、仕事において人間の必要性などが問われている今、自分の存在価値や重要性を学ぶきっかけになるこの事業は、非常に良いプログラムだと感じた。

## 【久留島 怜乃さん】千葉大学 国際教養学部4年



### 【プロフィール】

・氏名（ふりがな）

→久留島 怜乃（くるしま れの）

・所属：大学、専攻、学部学科、コースなど

→千葉大学 国際教養学部4年

・出身地：都道府県まで

→タイ

・学生生活：個人的な興味関心、学生生活で力を入れていること

→健康科学、環境問題、留学生支援、就活支援

・DP事業に係る参加理由・背景・きっかけ

→大学3年次の春から総合科学というメジャーに所属し、自身の興味関心をもとに、幅広い分野の授業を受講し、研究テーマを見つけることとした。

・具体的な関り方と内容（履修科目やスタッフなど／※次の質問とは別の観点で）

→大学3年次の夏に特別プログラムという集中型の授業にいくつか参加し、自らデータを集めて分析を行う実験手法に関心を持った。そしてその中でも特に健康科学分野に興味を湧き、現在健康科学分野の研究室に所属している。

・DP事業を通じた社会とのつながり（とくに企業・自治体・高校など／※前の質問とは別の観点で）

→千葉県で開催されるスポーツイベントのボランティアに参加したり、実験のデータを取得するため大学付近の幼稚園を訪問した。また、大学のあるプログラムに参加した高校生の研究課題を知り、それが自身の研究テーマの決定につながった。

・DP事業の学びを自身のキャリアにどのように活かそうか（大学院進学や就職など）

→昨今の複雑化した社会課題解決に対して、多角的な視点から総合的に物事を考えることができるのではないかなと思う。

・これまでの枠組みにとらわれない教育（＝DP事業）の必要性や意義について個人やまわりの学生から聞いた考え

→学生自身の持つ興味関心に基づいて柔軟に授業計画を立てることで、特定の領域にとらわれない視点を持つことができると考える。また、文理融合の幅広い分野を学習することで、自分自身が気付かなかった新たな興味の発見につながることが期待できる。

実際、授業では自分とは異なった視点を持った学生と意見交換ができていてと感じている。

## 【玉置 嶺雄さん】名古屋商科大学 商学部3年



### 【プロフィール】

・氏名（ふりがな）

→玉置 嶺雄（たまき れおん）

・所属：大学、専攻、学部学科、コースなど

→名古屋商科大学 商学部3年

・出身地：都道府県まで

→愛知県

・学生生活：個人的な興味関心、学生生活で力を入れていること

→大学4年生の時期に起業をしたいと考えているので、ビジネスに関する学びをすることたくさんの人と関わることに力を入れている。

・DP事業に係る参加理由・背景・きっかけ

→商学部の授業プランに事前に入っているため参加をした。しかし、過去に遡ると元々名古屋商科大学を受験したのもより実践的なビジネスのノウハウを吸収するためであり、そのきっかけは、大学のパンフレットでDP事業の存在を知り、実践的なビジネスの学習に魅力を感じたからである。

・具体的な関り方と内容（履修科目やスタッフなど／※次の質問とは別の観点で）

→参加者(受講生)として参加した。同じ受講生のなかで、チームを作り企業の要望を聞きながら1年次から力を入れて学んできたマーケティングの知識を活用し1分の動画作りをした。

・DP事業を通じた社会とのつながり（とくに企業・自治体・高校など／※前の質問とは別の観点で）

→これまで、ケースメソッドに基づいた学習が多くリアルなビジネス課題に向き合うことができたが、DP事業は、実際にフィールドに出てビジネス課題に向き合うフィールドメソッドに基づいた学習で、企業(クライアント)の要望を聞きながらターゲットの心に響く広告動画を作成していった

・DP事業の学びを自身のキャリアにどのように活かそうか（大学院進学や就職など）

→DP事業を通して、たくさんのご縁とビジネスを円滑に進めるためのノウハウを吸収することができ、将来にも活かせると感じた。例えば、相手の信頼をつかむのに必須のビジネスマナー。相手から本音を聞き出すインタビューの方法。そして、目的に対して確かな結果を出すためのマーケティングなどである。また、現在は「関谷醸造」という日本酒を作っている企業のPR動画を個人的に作成させていただいており私のキャリア形成に大きな糧となった。

・これまでの枠組みにとられない教育（＝DP事業）の必要性や意義について個人やまわりの学生から聞いた考え

→これまで、私が受けてきた実践的な授業は、あくまで自分と教授のみで完結するものであったが、実際に自分の意見を形にし社会に発信することも、明確な効果の有無場面もなかった。しかし、よりターゲットの目線になって考えてみる大切さを知ることができたりこれまでの学びの必要性と具体的な実践方法がわかった。